

守っているからである。緊張のためか、授業の進行が遅々としてはかどらず、同じ学生を連続して指名したことも何度かあった。こんな中で痛感したのは、教師は生徒の心理をよく掴んだ「役者」でなければならぬことであった。則ち、いくら時間がなくてもゆとりを見せ、自然な授業が運ぶように状況を造り出すことであった。

授業が終ると、批評会があった。これはかなり、授業をした教師に対して苛酷なもので、数学では間違いを教えることは許されないために、授業中でのミスのためにグループ全体で指導案の書き直しを命ぜられたこともあった。

こう書いてくると苦しみしかないようだが、そうではなかった。第1週が終った後で開いた慰労パーティーは、至極楽しいものであった。男子が大半を占める環境・情報コースにとって、地域・社会の hübsche Mädchen と知り合うには絶好の機会であったからである。第2週目の木曜日には、残念ながら参加はできなかったが、球技大会があり充分楽しませてもらった。

以上簡単に回顧したのであるが、たとえ現実に教師になることができなくなっても、この教育実習は大学時代の良き思い出と人生への自信につながるものと思われてならない。

附属の先生方に感謝をしつつ、

Tschüß, das Referendarpraktikum.  
52年度生 環境科学 原頭基司

### 教育実習を終えて（国語）

教育実習について書きたいことは山のようにあります。そこで、今回はおこがましくも実習の心得とといったことを述べます。国語教育に関する深遠な議論を期待される向きには予め断っておきます。

〈片手に教科書、片手に……〉そう、片手には指導書といきたいのですが。指導書とは教師用のアンチョコ。語句の意味、段落の要旨、板書例、試験問題から評価の方法まで懇切丁寧に書いてある本です。字さえ読めれば、誰でも授業ができます。でも、国語科では見せてくれません。手元には教科書があるだけです。全くゼロの状態から教案（授業計画）を作るわけです。もう一方の手に持つものはないのです。

〈精読雨読〉担当の単元は数週間前にわかりますから、とにかく精読しましょう。疑問点は納得するまで調べましょう。そのうち、寝ても醒めても活字がちらつきます。こうなればしめたもの、授業の一人芝居でもして楽しんで下さい。

〈授業の行も教案から〉さて、福山へ。対面式のあと、教案作りが始まります。教えたいことはたくさんあるのに、担当時間は3～5時間。その上、5分10分単位で教案を組まねばなりません。参考になるものといえば、先輩の教案が少々あるだけです。真似をするしかありません。やっとなんて先生に見ていただくと、みるみるペンディングがつき、やり直し。2～3回は書き直しさせられます。多分、OKの出た教案は最初のとだいぶ違うはずですが、なにはともあれ、授業の準備はできました。でも、その前に。

〈泥棒は教師の始まり〉中高生の万引が増えているからといって、教師もやれというわけではありません。他人の授業を見て、いい点・悪い点を盗むことが大切なのです。他人の授業はほんとうにためになります。ただ、悪い点はあまり本人に言わぬように。下手すると、長年培った友情にヒビがはいられますから。（反省会では別ですよ。）

〈校時、間少し〉緊張・不安・期待、使い古されたことばを実感しながら、初授業です。1校時は50分。50分の授業を聞くのがいかにだるい作業かはみなさん御存知のはず。でも、教える方になると、全く逆です。アレアレという間に終わってしまいます。ふと我にかえると、予定の半分もやっていません。手はチョークで真白なのに、目の前は真暗。遠慮なく落ち込んで下さい。

〈生徒は神様〉でも、生徒はそんな私たちを暖かく見守ってくれます。気楽にやればいいのです。少々へまをやった方が生徒にも受けます。どうも生徒は失敗を期待しているようなのですから。

〈光陰矢の如し〉2週間はすぐに過ぎます。もっと福山にいたいと思うはずですが。帰ってもしばらくは、あれこれ思い出してはニヤニヤ。牛になってしまいます。気がつけば、7月、採用試験が目の前となっているでしょう。

教育実習は、教育職員免許法施行規則に定められた2単位でしかありません。これだけのことと開き直るか、プラスアルファを求めるかはあなた次第です。言い換えれば、自分が教師に向くか、本当に教

師になりたいのかを知る絶好の機会なのです。相当の覚悟とお金を忘れないで下さい。

49年度生 地域文化 中井良幸

## 生徒の反響は……

### きんちょうとあこがれ

1学期の半ばごろから、教育実習の先生が多数来られました。ちょうど、入学してからだいぶたった、中だるみの出ているようなこのころに、もう一度、きんちょう感が出てきました。

私達1年生にとって、このように多勢の教育実習の先生が来られるというのは初めてのことなので、不安、期待、きんちょう感のいりまじったような心持ちでした。

ところが、いざ先生が来られてあいさつをかわしたあとは、そのような気持ちは、なくなっていました。それどころか、若い先生方が来られたおかげで、学校内も明るく、新鮮になったような気持ちさえしました。

教育実習の先生には、組担任の先生と、科目のみ担任の先生がおられました。私は特に、科目担任の先生（総合科学部）の方が印象に残っています。

家庭科、体育、理科、社会などの教科を教えてくださいましたが、その中で、特に授業の様子などのかわったのは、理科でした。

今までと、ノートのとり方、要点の話し方などが、全く異なり、あわてはしたけれど、1人1人の先生の授業は、感じこそちがいましたが、とても受けやすかったです。

理科の先生の中に、女の先生が2人ほどおられました。その先生方が、とてもすきでした。理科で女の先生というのはあまり多くいませんので、そのように感じたのも1つの理由でしたが、もう1つはというと、私自身も少なからず、あこがれていたからです。

とにかく、初めての教育実習の先生方でしたが、多くの印象を受けました。教育実習の先生を見て、自分も先生になろうと決めた人が多くいると聞いたことがあります。なるほど、わかるような気がしました。まだ1年生なので、将来までは決めないまでも、この多くの先生方が私達にえいきょうをあたえてくださったことは事実です。

9月に又、教育実習の先生が来られるそうですが、

多くの先生が来られるのを、楽しみにしています。又、新しい先生がこられて、自分もそれなりに新しいことを1つつつ、つかんでいくということを望んでいます。私に新鮮な考え方をもちせて下さった、理科の先生に、もう一度、会えることを願っています。

広大附属福山中・高等学校

1年C組 梶山直美



## 人間を教育する人々

— 教生の方々に望む事 —

毎年新しいクラスの雰囲気づくりに欠かせないのが、教育実習生の存在です。教生の皆さんは、私達と担任との橋渡しをしてくれるので、先生に直接言いにくい相談も教生になら気軽に持ちかけることができました。私達にとって身近に感じられたのは、年齢が接近しているからでしょうか。授業でも5、6月といえば先生の授業のペースやリズムに慣れて、眠くなる人も多い頃ですが、みんないつもと違う授業に張り切ったのぞんでいたように思います。

私達のクラスは、総合科学部の世界史や化学の教生に、教えて頂きました。最初はやはり緊張するせいか、適当な言葉が見つからなくてとまどったり、同じところを何度もやったり失敗されることもありましたが、2時間目3時間目ともなると、スムーズに和気あいあいと授業が進みました。どの教生の授業も楽しかったのですが、ただ楽しくおもしろいだけでなく、とてもわかりやすかったのは助かりました。何と言ったらよいのかわかりませんが、自分の持っている知識をどうにかして私達に伝えようと、前の晩もろくに眠らないで指導案をつくられる姿を見てとてもうれしく思い、感激しました。

教育実習のころになると、なぜか自分も教師になりたいと思うのは、教生が来るたびに人間を教育することの大切さやすばらしさをひしひしと感じるか

からです。だから自分もそんなすばらしいことが出来たらいいなあと思うのです。

私は今“人間を教育する”と簡単に言ってしまいましたが、実際はそんな生易しいものではなく、もしかすると人の生き方まで変えてしまうくらい重大なことだと思います。ですから、それを承知でこの道を選ばれた教生の皆さん、えらそうなことを言うと思われるかも知れませんが、どうか、人間らしい心を持ったたくさんの方の生徒が、いつも回りをとり囲んでいるような、そんな先生になって下さい。応援しています。

広大附属福山中・高等学校  
 五年生 横溝珠実

### 総合科学部教育実習（社会科の場合）について

総合科学部の教育実習生は、概して熱心で意欲的で、わからない事を率直に聞いてくる者が多く、私は大変好感をいただいている。又、実習の後や就職してからも交流を続けている人達もいて、私自身もっと頑張らなくてはと、大きな励みになっている。実習が始まってからの態度が非常に熱心であるだけに、実習前の準備の不足や意識の不足が惜しまれる。

以下、実習前の準備、実習中の態度、施設の問題点について所感を述べたいと思う。総合科学部生への期待が大きいため要求度が高くなることをお許しいただきたい。

#### 1. 実習前の準備

総合科学部生の教育実習オリエンテーションは1ヶ月前に行なわれる。その際には実習時に担当する単元が知らされ、「教育実習の手引き」が渡される。

それなのに、実習が始まって初めて、その単元の教材研究を始め、手引きをあわせて読む者が少ない。

1ヶ月前にオリエンテーションがあるのは、実習生としては極めて恵まれている。普通は、実習が始まってから授業をする単元を指示されることが多いのである。1ヶ月前に指示するのは、たとえ実習生が行う授業でも、生徒にとっては先生から教わることに変わりはなく、それだけにやり直しのきかない貴重な50分間だからである。教師という職業は、見習い期間のない、極めて厳しい職業であることを自覚して実習に臨んでいただきたいと思う。十分な教材研究がなければいくら良い授業を構成しようとし

てもできない。これは現場に出てからも同様である。

短い実習期間中には、授業の構成理論や板書等の技術的な事、視聴覚機材の利用の仕方等を指導するのが精一杯であり、内容については本人が理解できていない限り、指導の限界がある。従って、オリエンテーションからの1ヶ月間、いろいろな書物で教材研究をしておいていただきたい。更に、自分で大まかな授業の構想ができあがっていれば、どんな参考文献を用意したらよいかも見当がつく筈である。

私が受持った実習生の中に、この1ヶ月の準備期間中にグループで模擬授業をやって臨んだ人達がいた。実習の当初からかなり鋭い質問が出され、中味の濃い実習であった。私自身も彼らの熱意に応えようとする、かなり勉強しなくてはならず、大変であったが、忘れられない2週間であった。教育というのは熱意と誠意が相手の熱意と誠意を引き出す、この相互作用なんだな、と日々思ったものである。

ところで、実習生は3年生の段階で「教科教育法」の講義を受けなくてはならない。この「教科教育法」では、教科の目標、各科目の目標や関連性、授業構成の理論など実際に授業する際に直接関係する内容を学ぶ。従って実習の始まる前にはもう一度、この講義ノートを見直しておいてほしい。「教科教育法」に積極的に参加していたか否かは、実習時に大きな差を生んでいるようである。

3年生の段階で、なるかならないか定かでない就職科目に強い関心を持つことは難しいのかもしれないが、教育はその相手が成長期の人間であるからこそ、いい加減な気持ちで実習に臨んでいただきたくないと思う。

今年度の実習後、4年生が3年生に報告会をしようと呼びかけたところ、1人も集まらなかったとか。4年生が体験した苦勞とその一方で得た大きな感動を伝え、来年度の実習がより実り多いものとなるように考えた企画だったのに残念なことだと思う。誰よりも計画した4年生の失望は大きかったことだろう。

#### 2. 実習中の態度

総合科学部の教生は、短い実習中にできるだけ多くのことを学びとって帰ろうと、意欲的に取りくむ者が多いので、教官も熱心にならざるを得ない面がある。グループによっては反省会が7時すぎに及ぶところもあり、2週間の間に見違える程に成長して帰る者がいる。

それに対し、多くの熱意を持った実習生に応えるために、指導する教官の側も、教科内である程度の指導基準や評価基準等を決めておくことが必要であろうと考えている。

ところで社会科は、中学校では分野に、高等学校では科目に別れており、それぞれ専門の分野に対する深い教養が要求される。中でも日本史や倫理社会は、深い学問的基盤がなくては教える段階には至らない。その点総合科学部生は、学部性格上、この2科目の実習生に教材研究不足が目立った。しかし一方、地理や昭和57年度より登場する「現代社会」等のように、専門知識に加えて広い視野からの考察が要求される科目では、学部の特性が生かされるのではないかと考える。ただ、どの科目を受持つことになっても、何のために社会科を勉強するのか、その科目（または分野）の学習を通してどのように社会科の目標を達成しようとしているのかを常に認識しておくことが必要である。

また、学校では生徒に対しては教師であり、教官に対しては実習生である。従って、社会人としてのマナーを心掛けることも必要であろう。例えば気持ちよく挨拶をする、早く来た者が窓を開ける、時間を守る、自分の所持品を整頓して管理する。最後の者は湯呑や灰皿を片付け窓をしめる等。各教科の準備室は生徒の出入りする教室であって控室ではないことを認識しておいてほしい。このようなマナーに関する事からは、なかなか正面からは言われないことだが、大切なことだと思っている。

### 3. 研修施設

総合科学部生の教育実習の特色の1つは、実習校が大学から遠く離れているために合宿をせざるを得ない点ではないだろうか。

学校での実習が終わると、教科・科目の異なった各実習生が同じ宿舎に戻り、互いに1日の、実に多くの体験を語り合い、教育観をたたかわせる。他の実習生の言葉から得た新しい視点をもりこみながら次の教材研究にいそむ。場合によっては模擬授業を行ない、仲間の指摘により授業の展開に更に工夫を加える。など、各自の家や下宿から通っていたのではとうてい得られない効果がある。

しかし、現実にはその施設が不備であるために十分な効果があげられないで、実習生の経済的な負担や健康面での無理が生じている。例えば、民間の旅館にかなりの経費を支払って宿泊したり、狭い部屋

に数人が同居させられた結果、教材研究も睡眠も十分にできなかつたりしている。連日の睡眠不足を気力で乗り越えようと頑張っている実習生を見ると胸がいたむ。

先に述べたような合宿の効果が生かせて、教育実習をより実り多きもののできる、実習生のための研修施設が整えられればと思う。

広島附属福山中・高等学校教諭 竹之内一子

### 終了の辞に代えて

— 教えることの喜び —

この福山分校にやって来る前に、私は大学の先輩方に教生生活の実態がどんなものなのか、聞いてまわりました。それは、教生生活に対する不安があったためと思います。しかしながら、先輩方の話を聞いていると、どうやら苦しい経験や失敗等も過ぎてしまえば全て楽しい思い出となるようなのです。

つまり、「教生はどうでしたか？」と聞けば、「良かった良かった」とか、「楽しかったよ」と返ってくるのです。そうして、「授業はうまくできましたか？」という質問には、「失敗したこともあるが、なんとかうまくできるよ。最初は思い通りにできなくても、2週間目ともなると自分なりの授業ができるようになる」というのです。こういう話を聞いていると、自分にも何か良い授業ができそうな気がしてくるから不思議です。

しかしながら、実際の教生生活はそんな甘いものではありませんでした。初めて登校して以来、毎日毎日が授業の事で頭が一杯で他に何もできない始末でした。特に自分が授業をする前日等は、教案を書いたり予備実験をしたり、挙句のはてには、同宿の仲間たちを集めて模擬授業をしたり、それでもまだ安心できなくて、何度も何度も自分の教案を読み直したりで徹夜に近い状態でした。それでも実際の授業は仲々思い通りに出来ず、時間が足りなくなったり、逆に時間があまり過ぎたり、間違ったり、大切なことを言い忘れたり……。しかし、そうした中で私たちは身をもって教えることの難しさ、使ってしまった一時間一時間の貴重さを知ることができたのです。そして自分の授業を一回一回経験して行くうちに、ますます責任を感じ、ますます慎重に授業に取り組むようになりました。同時に徐々にではありますが授業の仕方にも慣れ、教案の書き方も手際よくなって、授業に対する余裕も持てるようになり、

各々いろいろと工夫をすることもできるようになったのです。

こうして私たちは、教えることの喜び——それはほんの一端ではありますが——を知ることさえできたのです。

私たちにとって、この福山での経験は、これからの人生の中で大きな糧となることと思います。そして私たち自身、大学に戻りましたならば、後輩に対して、「教生活は非常に有意義であった、楽しかった。」と言うことでありましょう。今、教生としての生活を終えるにあたり、この様に思うことができますのは、こちらの先生方、職員の皆様、それから大学の関係された先生方、宿舎その他手続きの世

話を下さった大学職員の皆様のおかげであると心から感謝しております。それと同時に、へたくそな私たちの授業を最後まで熱心に聞いてくれ、時には助け舟さえ出してくれた生徒の皆さんの協力があったらこそと思います。皆さん本当にありがとう。私たちは本校での経験を立派に生かして良い教師そして社会人となることをお約束して、皆さんに対するお礼の言葉にかえさせていただきたいと思ひます。それでは、また会う日までさようなら。

全ての教生を代表して

52年度生 環境科学 平岡耕一

## ◆もう1つの総科◆

# ＝大阪府大総合科学部を訪ねて＝

総合科学部——この名称をもった学部が広大の他にもう1つだけある。それを知って極単純に興味を覚えた。その規模・内容・広大総科との相違など。こうして7月の末、私は単身大阪へのりこみ、梅田駅で同じ編集委員のO氏と落ち合った。その夜はO氏宅に泊まり翌日の計画を話し合ったのである。

明けて7月26日、快晴には程遠い雲の多い朝にO氏と共にO氏宅を出発し、まず難波駅で事前に連絡しておいた筆者の高校時代の友人で現在大阪府大総科1年生のY氏と合流した。久々の再会で話がはずむ一方、O氏は多少疎外を感じてダレ気味であった。電車で約1時間そんな調子で電車は目的の駅に着いた。そういえば、筆者は阪急の自動改札口の通過のしかたを知らず、少なからず困惑したのであった。「ふーん、ああして通るのか」と感心しながら10分程歩くと大阪府大へ到着した。白鷺門に入ってすぐその名前ばかりの広大とはあまりにかけはなれた広大さに感激し、人影少なく緑多き府大キャンパスに吸い込まれていった。Y氏に総合科学部1号館、同2号館を案内してもらった。府大総科には学生会とよばれる組織が存続し、主に学部と学生とのパイプ役をしていて、極めて両者にとって有機的に活動しているそうである。しかし我々の学生研究室に相当する学生会室は全学年共有であるのかかわらず、



白鷺門

非常に狭く、主に役員だけのものであり、我々のように恵まれているわけではなかった。事前の連絡を怠ったためにその日は大学見学とY氏との意見交換のみにとどまり、後日学部長に質問状を送ることを決め、3人は学食へ行って「府大ランチ」を食べた。ボリュームは満点であった。

さてここで府大総科の概要を記そう。

○定員 60名

○コース

・日本文化コース

日本国民の実生活から生れ、推移発展し、また中国をはじめとする東洋諸国及び欧米との交流により、絶えず新しい変化を遂げてきた日本文化を個別的、